

# 令和元年度「山城地方外国語教育 授業指導力アップ研修会」を開催しました。

## 10/29 (火) 小学校・中学校・高等学校 から165名参加

### 城陽市立寺田西小学校、西城陽中学校で公開授業

子どもたちが楽しみながら生き生きと英語を使ってやりとりしている姿が印象的でした。両校とも、即興性を育成するスモールトークや必然性のある言語活動、ペアやグループでの学び合い等、授業改善で大切にしたい視点を多く取り入れた授業を公開していただきました。

○驚くほど意欲的、かつ高度な会話練習が展開されていたので、それを踏まえてさらに幅広い表現を使った会話練習を中学校で実践しないと、小学校からの積み上げを活かしきれなくなってしまうのだと感じた。

○必然性のある課題が生徒に動機付けをし、やってみたいという意欲が見られる良い授業でした。生徒が安心して笑顔あふれる授業が印象的でした。

○単元のゴールを明確に示して、単元計画を練っていこうと思いました。評価に関してもルーブリックを子どもと共有するというのが、生徒にとっても目指すべきところが分かりやすく、自分の授業にも取り入れたいです。

(参加者の感想より)

課題提起では、新学習指導要領の全面実施に向けて、小中連携を視点に、「子どもたちが英語に触れる機会を増やす」、「言語活動を充実する」、「多面的・多角的な評価を行う」の3点について説明しました。取組報告では、西城陽中学校の山田教諭から、自校の取組について報告していただきました。

### 課題提起



### 取組報告

### 講演



大阪教育大学の加賀田教授から「子どもの心を耕す外国語教育」と題して、かかわり合い、伝え合い、つながり合うことを大切にしたい指導方法について教えてくださいました。

○外国語の学習は、英語力をつけることだけではなく、豊かな心を持たせること、異文化の理解をさせることも大切だと思いました。

○「ことば」は人と人をつなぐ生きた媒体であること、外国語教育をする上でコミュニケーション能力の育成とともに、豊かな人間性を育むことが大切なのだということを忘れずに日々の授業に臨みたいと思いました。

○形式にとらわれず、心に働きかけられるような授業ができるように、広い視野で考えていきたいと思えます。新たな気持ちで教育現場に臨めそうです。

○やりとりをもっと意識した授業、思考を問う発問の工夫をしていきたいと思いました。できた、分かったに、楽しみ、喜びを感じる授業を目指したいです。

○振り返りカードの充実を通して、生徒の中で「自己調整」をうながすことの大切さを再認識しました。

(参加者の感想より)